

令和 3 年 6 月 1 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04127

研究課題名(和文)戦後日本の夜間中学とその生徒の史的変遷：ポスト・コロニアリズムの視座から

研究課題名(英文)Historical Transition Process of the Night High Schools and Their Students

研究代表者

浅野 慎一 (Asano, Shinichi)

神戸大学・人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：40202593

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：全国夜間中学校研究会大会関係資料を主な素材として、1947年から2018年に至る戦後日本の夜間中学の史的変遷を総体的・通史的に把握した。また夜間中学の生徒で大きな位置を占めた中国残留日本人(引揚者・帰国者)の生活実態やそこで夜間中学が果たした役割等について解明した。具体的には4年間の計画期間中、夜間中学の史的変遷を直接のテーマとした論文5篇、書籍分担執筆1篇、および中国残留日本人など関連する論文4篇を刊行し、さらに計10回の学会等での口頭発表を行った。また関連史料の収集・保存作業を推進し、電子史料保存システムを拡充した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

夜間中学とその生徒の史的変遷を総体的・通史的に把握したことは、学術的・社会的に意義ある成果である。またこの領域で、ポスト・コロニアリズムやディアスポラの観点の重要性を確認したことも、本研究の学術的特長である。本研究の調査過程で新史料の発掘・入手が進み、全国夜間中学校研究会の電子史料保存システムを一層拡充させた。さらに保存・収集した史料を次世代に継承・公開するための史料集成編纂・刊行の見通しもつてることができた。これらは一定の学術的・社会的意義をもつと思われる。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the historical transition of night junior high schools in Japan from 1947 to 2018 as a overview of History. And this study also clarified the life of Japanese left behind China after W.W. . . , who occupy a large position among the students of night junior high schools, and the role played by night junior high schools there. This study promoted the archive of historical materials related to night junior high schools, and expanded the electronic historical materials archive system.

It is academically and socially significant to clarify the historical transition of night junior high schools and their students as a overview of History. And it is also an academic feature of this study confirmed the importance of the viewpoints of post-colonialism and diaspora.

研究分野：社会学

キーワード：夜間中学校 ポスト・コロニアリズム 中国残留日本人 ディアスポラ 義務教育

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 夜間中学は、学齢期に通常の義務教育を受けることができなかった人々のための義務教育機関である。日本に夜間中学が誕生したのは1947年であり、70年間以上の歴史を重ねてきた。しかし夜間中学とその生徒を直接の対象とする学術研究は、社会学はもちろん教育学も含め、1960年代末以降、極めて部分的・断片的にしか行われてこなかった。

(2) しかも夜間中学は、その法的根拠・制度的基盤の脆弱さ、及び、改廃・質的变化の激しさ等の事情も相俟って、現場での安定的な史料保存が難しく、これに関する膨大な一次史料が散逸・劣化の危機に直面していた。そこで研究代表者は2013年以降、夜間中学関係者の唯一の全国組織である全国夜間中学校研究会（以下、全夜中研と略称）と連携し、全国各地に散在する夜間中学関連史料を集成・保存する事業を実施してきた。本課題は、この集成・保存事業の一定の到達点をふまえた基盤研究である。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、70年間以上に及ぶ夜間中学とその生徒の労働・生活・社会意識の史的変遷過程を実証的・総体的・通史的に把握し、その歴史・社会的意義を考察することにある。

(2) 具体的には、1947年～2020年までの夜間中学とその生徒の史的変遷過程を、これまでに全夜中研と連携・協力して収集・保存してきた膨大な一次史料に基づき、また新たな史料発掘・収集・保存の取り組みを継続しつつ、明らかにすることを目指した。これは1960年代末以降、ほぼ途絶えてきた当該テーマに関する学術研究を、新たな歴史的視座・文脈において復活・再生させるものである。

(3) その際、次の2点に留意した。一つは、学校・教室内部の教育課程や生徒-教師関係に視野を限定せず、生徒の社会的属性、学校外での労働-生活過程や通常の義務教育を受けることができなかった歴史・社会的背景、地域的特質、およびそれらの変遷をできるだけトータルに把握すること。もう一つは、生徒の国籍・民族・文化等の多様性をふまえ、日本国内のみならず、東アジア諸地域におけるポスト・コロニアルの社会変動論の視座から、その歴史・社会的意義を考察することである。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究の主な方法は、全夜中研と連携・協力して構築してきた3つの史料基盤（『60年の歩み 全国夜間中学校研究会大会史料集成』、『夜間中学関連史料目録』、『夜間中学関係史料保存・検索システム』）を駆使するとともに、新たな史料発掘・収集・保存活動を継続的に実施し、膨大な一次史料を総合的・体系的に読解・分析することにある。

(2) また時期毎に変遷する多様な生徒の労働・生活史、および、そこで夜間中学が果たした役割を、インタビュー調査を通して実証的に把握する。とりわけ1980年代～2010年代の夜間中学生の中で大きな位置を占めた中国残留日本人やその二世の生活史、労働-生活過程やそれを支える社会文化圏の一環として夜間中学が果たした役割を検証する。

(3) なお理論的にはポスト・コロニアルの日本を含む東アジアの社会変動論、および日本の地域社会学の伝統で培われた生活過程論をふまえて史料読解・実態調査に当たる。

### 4. 研究成果

成果は、主に次の6点である。

(1) 全夜中研大会関係の史料に依拠した形ではあるが、1947年から2018年までの夜間中学とその生徒の史的変遷過程を、ポスト・コロニアルの視座から総括的・通史的に把握し、学会での口頭発表、および学術論文として発表した。この中で、生徒の基本属性と夜間中学への通学理由の変化を主な指標として、1947年～1954年：敗戦後の混乱と経済的困窮、1955年～1969年：高度経済成長と地域間格差・「学校嫌い」の膨張、1970年～1998年：学齢者・形式卒業者の排除と生徒の質の爆発的多様化、1999年～2018年：グローバル化と新渡日外国人の増加という4期の時期区分・質的転換の存在を確認し得た。また2018年以降が、グローカリゼーションと生徒のディアスポラ化を特徴とする第5の画期になる可能性があることも示唆した。これらの知見は今後、大会関係以外の諸史料もふまえ、教育課程・教育行政等の観点も併せ持つことにより、より

総合的・体系的な史的変遷過程の分析の起点となりうる基本的な成果である。

(2) 史料の散逸・劣化が特に著しい1947年～1955年については、東京・大阪・神戸・高知・福岡等で新たな史料探索・発掘・保存作業を進めるとともに、夜間中学とその生徒の労働・学習・生活の実態を、個別の各学校(14都府県・126校)のレベルに降りて、学校の名称、所在地、開設年月日、閉鎖された場合、その年月日、所在地の産業・地域的特徴、入学者・在籍者・卒業者の人数、生徒の性別・年齢・職業階層等について、可能な限り詳細に把握・整理し、論稿として発表した。またこれをふまえ、地域特性に応じて7つの類型を抽出した。すなわち 中小零細企業形態の製造業、および、商業の集積地、衣料製造業の集積地、漁村を背景とした地域、中小規模の炭鉱が集中する産炭地、戦争・敗戦の被害に関わる諸地域(米軍基地所在地、満州引揚者集住地、原爆被災地等)、港湾建設等、地域に特有な産業立地地域、そして被差別部落所在地等、それぞれの地域で夜間中学の設立経過や規模・生徒の属性に大きな相違があることを明らかにした。なお当該時期については、今後も新たな史料の発掘・発見が予想されるが、現時点までに入手・確認し得た史料情報については、ある程度、網羅的に整理・発信することができた。

(3) 大阪府の夜間中学の独自の特徴を分析・考察し、学会での招待発表、および書籍の分担執筆として発表した。大阪は日本における夜間中学発祥の地の一つであり、現在も最も多くの夜間中学を擁する地域である。本研究では、他の地域(特に東京)との比較で大阪の夜間中学の固有の特徴を明らかにするとともに、大阪内部でも 北部都心、南部都心、そして大阪府東部・南部の郊外で「日本系」・「在日コリアン系」・「中国帰国系」・「新渡日外国人系」の各生徒の構成比率や年齢構成、したがって必要とされる学習内容等がそれぞれ異なる実態を明らかにした。また夜間中学の存在が、大阪とりわけ都心のジェントリフィケーションに抗する「抵抗力」を側面から支え、言語・異文化等への表面的な「国際化」対応ではなく、その深層にある階級格差・能力主義差別への抵抗の契機をなす文化的基盤となっていることを指摘した。

(4) 夜間中学生の中で大きな位置を占めた中国残留日本人とその二世の労働・生活・学習過程、および彼・彼女たちが形成する社会文化圏において夜間中学が果たす役割について、インテンシブなインタビュー調査の結果に基づいて実証的に把握し、学会での口頭発表、および学術論文として発表した。特に他の日本語教育機関と夜間中学での日本語教育機能の明確な違いを、教育期間・目的・教師の質・教育方法、さらに生徒の生活相談や交流の場としての機能と言う点からも考察した。一方、こうした夜間中学も、所在地が限られ、通学に困難を感じている当事者が少なくないこと、夜勤の仕事、重労働、子育て等の負担により、通学の中断を余儀なくされている実態、就学年数が多くの地域で3～4年に制限され、これが当事者の日本語習得のみならず、日本社会での労働・生活全体に多大な支障・困難をもたらしていることも指摘した。これらを含め、研究代表者は、同時期に取り組んでいた新学術領域研究「和解学の創成」プロジェクトとも連携し、その市民運動班シンポジウムにおいて、中国残留日本人を支援する市民運動との関連で夜間中学を位置付けて報告し、歴史問題の和解を目指すポスト・コロナールの市民的社会圏の一環としての夜間中学の側面を考察した。

(5) 本研究の基礎となる夜間中学関連史料の発掘・収集・保存作業において、全夜中研史料管理委員会の活動を一層推進し、「夜間中学関係史料保存・検索システム」を拡充させた。現時点で同システムに統合されている史料数は約1万5000点に上る。またすでに電子ファイルとして保存されているが、システムに未登録の史料も数万点に達する。全夜中研と緊密な協力の下に実施しているこの史料保存事業は、今後の当該分野の研究・実践の発展にとって重要な基盤になると思われる。また最終年度には、これらの保存史料の批判・読会・公開に向けた研究会を、概ね月1回、定例的にオンラインで開催・組織してきた。これらにより、個人情報保護等に万全の体制を払いつつ、これまでに収集・保存してきた史料の公開に向け、一定の見通しをつけることができた。

(6) 学会での口頭発表、学術論文・書籍の刊行以外に、研究成果・関連情報をホームページ(「尊厳ある和解を求めて」<http://www.dignity-reconciliation.jp/>、および「全国夜間中学校研究会」[http://zenyachu.sakura.ne.jp/public\\_html/index\\_1.html](http://zenyachu.sakura.ne.jp/public_html/index_1.html))、さらにマスメディア(日本経済新聞、神戸新聞、西日本新聞、共同通信、朝日新聞、FMラジオ・JFN等)を通して発信した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 浅野慎一・Tong Yan	4. 巻 14-2
2. 論文標題 中国残留日本人二世の生活史と社会文化圏の形成（中篇）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 93-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浅野慎一	4. 巻 14-1
2. 論文標題 夜間中学校とその生徒の史的変遷過程（後篇）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 81-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浅野慎一	4. 巻 13-2
2. 論文標題 夜間中学校とその生徒の史的変遷過程（前篇）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 109-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浅野慎一・Tong Yan	4. 巻 13-2
2. 論文標題 中国残留日本人二世の生活史と社会文化圏の形成（前篇）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 89-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 草京子、浅野慎一	4. 巻 12-1
2. 論文標題 1947-1955年における夜間中学校と生徒の基本的特徴(後篇)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 47-65
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅野慎一	4. 巻 613
2. 論文標題 夜間中学の変遷と未来の「生命線」:夜間中学生アンケートをふまえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本の科学者	6. 最初と最後の頁 17-22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅野慎一、Tong Yan	4. 巻 12-2
2. 論文標題 中国残留日本人の生成過程における中国人民衆の実践と協働:ポスト・コロナリズムの視座から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 29-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 草京子・浅野慎一	4. 巻 11-2
2. 論文標題 1947 - 1955年における夜間中学校と生徒の基本的特徴(前篇)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 93-111
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 中国残留日本人孤児にみる歴史問題の和解と市民運動
3. 学会等名 日中社会学会第32回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 夜間中学とその生徒の史的变化過程
3. 学会等名 基礎教育保障学会第5回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 書評報告 中山大将著『サハリン残留日本人と戦後日本』
3. 学会等名 サハリン・樺太史研究会第56回例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 中国残留日本人二世の生活と社会文化圏の形成
3. 学会等名 神戸華僑華人研究会第180回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 中国残留日本人二世の生活史と越境的移動
3. 学会等名 日中社会学会第31回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 中国残留日本人二世の地域的移動と生活の変容
3. 学会等名 地域社会学会第44回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 歴史問題の和解と市民運動：中国残留日本人孤児に即して
3. 学会等名 シンポジウム「歴史問題の和解と市民運動」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 中国残留日本人の生成過程における協働と矛盾
3. 学会等名 日中社会学会第30回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 中国残留日本人の生成過程における協働と地域空間
3. 学会等名 地域社会学会第43回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅野慎一
2. 発表標題 夜間中学からみた大阪都心
3. 学会等名 地域社会学会第3回研究例会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 鯉坂学・西村雄郎・丸山真央・徳田剛・浅野慎一ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 358
3. 書名 さまよえる大都市・大阪	

〔産業財産権〕

〔その他〕

尊厳ある和解を求めて  
<http://www.dignity-reconciliation.jp/>



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------